

まちづくり交付金 事後評価シート
下呂温泉地区

平成20年12月

岐阜県下呂市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岐阜県		市町村名	下呂市		地区名	下呂温泉地区			面積	201ha	
交付期間	平成16年度～平成20年度		事後評価実施時期	平成20年度		交付対象事業費	7,141百万円	国費率	0.309			
1)事業の実施状況	事業名											
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	三原小川線、しらさぎ緑地、高質空間形成施設事業、高次都市施設事業、道添団地									
		提案事業	なし									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし									
		提案事業	なし									
新たに追加した事業	基幹事業	上ヶ平公園				南飛驒総合健康アリーナの交流の場を広げるため			影響なし			
	提案事業	南飛驒総合健康アリーナアリーナ運営計画				当初計画から提案事業で行う予定であったが、市町村合併にともない既存体育施設との有効活用を問われたため申請ができなかった。その後アリーナ検討委員会等にて審議を重ねた結果「地域交流センター」と「南飛驒健康アリーナ」は一体として同時に整備をしていくことが確認されたため新たに提案事業として追加した。			影響なし 計画区域の整備方針の追加			
交付期間の変更	当初	平成16年度～平成20年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		影響なし						
	変更	なし										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	年間宿泊客数	人/年	115万	H14	120万	H20	112万	△	ありなし ●	事業による効果が発現していることで下げ止まっている。	平成21年10月
	指標2	日帰り観光客数	人/年	43万	H14	43万	H20	47万	○	ありなし	事業による効果が発現している。	平成21年10月
	指標3	施設利用者数	人/年	2万3千	H14	2万9千	H20	-	-	ありなし	施設の稼働時期がH22.4になることから、評価時点の指標を測定できない。	-
	指標4									ありなし		
	指標5									ありなし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	しらさぎ緑地におけるイベント開催件数	回/年	5	H16			15		イベントの拠点として利用されており、効果が発現している。	平成21年4月	
	その他の数値指標2	年間宿泊客数単年度進捗率	%/年	100	H16			108		事業による効果が発現している。	平成21年10月	
	その他の数値指標3											
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 検討会や市民ワークショップに参加した市民のまちづくりへの意欲が向上した。 市が整備した後、民間により案内標識板を設置するなどまちづくりに対する意識の向上が見受けられる。 ハガキによる下呂観光アンケート調査から、温泉街は事業の整備前と比べ街並みがきれいになったという意見があった。 											
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等	
	モニタリング	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた						
	住民参加プロセス	<ul style="list-style-type: none"> 道づくり部会 しらさぎ緑地検討会 南飛驒総合健康アリーナ(仮称)建設検討委員会 南飛驒総合健康アリーナ(仮称)WS しらさぎ緑地・道路修景事業進捗状況報告及び意見交換会 			都市再生整備計画に記載し、実施できた	●			今後も同様な事業の場合には、住民参加を図る。			
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
持続的なまちづくり体制の構築	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた							
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

様式2-2 地区の概要

下呂温泉地区(岐阜県下呂市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標 観光客が集まる当地区の位置づけを最大限活用しながら「観光客と住民がともに楽しめる」まちづくりを目指す。 目標1 河川高水敷を緑地として地元住民は勿論、観光客が散歩できるよう整備を図り、自然とのふれあいの場、親水の場とする。 目標2 観光道路としての人によさしい整備を目指し、バリアフリーに対応した道の整備を図る。 目標3 地域交流センターの整備により、多くの人々が訪れることによって、市の活性化を図る。	年間宿泊客数	単位:人/年	115万	H14	120万	H20	112万	H20
	日帰り観光客数	単位:人/年	43万	H14	43万	H20	47万	H20
	施設利用者数	単位:人/年	2万3千	H14	2万9千	H20	-	-
	しらさぎ緑地におけるイベント開催件数	単位:回/年	5	H16			15	H20
	年間宿泊客数単年度進捗率	単位:%/年	100	H16			108	H20



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・しらさぎ緑地の整備によりイベント拠点として活用されるようになったとともに、散策ルートとしても整備され、滞在時間の増加や回遊性に貢献している。 ・観光客に対し、観光案内・まちなか案内などによるルートの説明やサイン計画による情報提供が必要である。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・下呂市長の今後の指針として、「御嶽・飛騨小坂200滝、清流馬瀬川、金山巨石群、健康保養地等それぞれ特色ある地域資源を生かし、「点から面」の観光地づくりを進め、市内で連泊してもらう滞在型観光の推進とリピーターの増加を図ることにより、宿泊客年間150万人を目指す。また、これからの観光のキーワードは「人」であり、観光に関心ある「人づくり」の推進と観光協会、商工会などへの積極的な支援と連携が行政の役割である。」と表明している。 ・地区内全域で案内看板が不足している。国道からの案内板や駐車場の案内板の整備が必要であり、まちなかの案内板も必要である。 ・まちづくり交付金で整備した後においては、噴泉池は夕方も朝方も利用者が多く、旅館に宿泊している方も入りに来ている。加えて、数ある足を基点として浴衣で回遊する人も増えてきている。今後も噴泉池の維持管理に注意しながら活用していくとともに、点在する地域資源を繋ぎ活用する必要がある。